

## 体験活動に係る実践事例



推進校は、生命の尊さを理解させ、動物愛護の心を培う体験活動の実施に当たり、学校担当獣医師から具体的な体験活動の内容等について、指導・助言等の支援を受けています。



### 新宿区立東戸山小学校

#### 【実践の概要】

- ヤギの飼育を担当する低学年の児童が、ヤギに対して怖がることなく、親しみをもって接することができるよう、ヤギよりも身近な子犬との触れ合い体験活動を行った。
- 子犬との触れ合い体験活動の後には、学校担当獣医師の指導の下、ヤギとの触れ合いの会を開き、散歩やブラッシング等、実際にヤギに触れたり、世話をしたりする活動を行った。



子犬の心音を聴く体験活動の様子

#### 【児童の反応等】

- 子犬の心臓の音を聴診器を使って聞いたり、子犬を抱いたりする活動を通して、児童は命の温かさや大切さを実感することができた。
- 児童の中には、動物が苦手な児童がいるが、学校担当獣医師による子犬との触れ合い体験活動により、怖がらずに接することができるようになった。
- ヤギとの触れ合いの会を通して、児童は、飼育動物の行動等をよく観察することで飼育動物の気持ちが分かるようになることを学んだ。また、飼育動物に親しみをもつためには、飼育動物の気持ちを考えて世話することが大切であることを学んだ。



## 大田区立赤松小学校

### 【実践の概要】

- 児童とモルモットとの関わり方について、学校担当獣医師からモルモットが安心できる抱き方やストレスを少なくする方法を話してもらうとともに、モルモットとの触れ合い活動を行った。
- モルモットとの触れ合い活動では、学校担当獣医師が持参した聴診器を使って、モルモットやウサギ、カメレオン、ヒトの心臓の音を聴く活動も実施した。



モルモットが安心できる抱き方を体験する様子

### 【児童の反応等】

- モルモットとの触れ合い活動では、ブラッシングの方法、鳴き声を聞き分ける方法等、具体的な体験活動を通して、モルモットがリラックスしている様子を児童が把握できるようになった。また、様々な動物の心音を聴き比べる体験は、多くの児童が命の大切さを実感するきっかけとなった。
- モルモットとの触れ合い活動を通して、児童はモルモットが安心できる抱き方等を知ることができ、以後の飼育活動でも怖がらずに自信をもってモルモットと関わるできるようになった。



## 青梅市立第四小学校

### 【実践の概要】

- 第2学年の生活科「生きものはっけん」の单元において、学校担当獣医師からチャボの飼育の方法について指導・助言を受け、実践する活動を設定した。
- 学校担当獣医師からチャボのエサを食べやすくすりつぶしたり、配合飼料以外に家庭から出る野菜の切りくず等を持ち寄ったりして栄養を与えるとよいことを教わり、チャボのエサを準備する活動を行った。



チャボのエサをすりつぶしている様子

### 【児童の反応等】

- 年間を通した継続的な飼育活動により、児童のチャボに対する愛情が育まれた。チャボの容態についても、「元気がない」、「とさかの色がよくない」等、担任に随時報告するようになった。
- チャボの世話を始めたころは、近付くことができずに遠くから見ている児童もいたが、4羽のチャボについて、それぞれのチャボの名前と性格を理解する等、第2学年の多くの児童が、識別できるようになった。



## 日野市立豊田小学校

### 【実践の概要】

- 第2学年の生活科「ヤギのミルクのお世話をしよう」の単元において、エサやり、水やり、散歩、飼育小屋の掃除、ブラッシング等、学校担当獣医師の指導の下、動物への親しみや命の大切さを実感させる体験活動を行った。
- 年度末には、ヤギの世話の仕方を説明した「ヤギのお世話ガイドブック」を作成し、第1学年児童に引き継ぐことを通し、自らの成長を感じることができる活動を設定した。



ヤギの世話をしている様子

### 【児童の反応】

- 動物への関心が高い児童が多くいたが、学校担当獣医師との授業により、より一層の興味や関心を高めることができた。
- より多くの児童が動物への愛着をもつことができるように、学校担当獣医師が犬やウサギと触れ合う体験活動も実施してくれた。また、ヤギとの体験活動の前には、学校担当獣医師がヤギの行動等についての資料を準備し、説明をしてくれたため、これまで動物に触れた経験がなかった児童も、抵抗感なくヤギと触れ合うことができた。